

## 豊かな人間関係を育む生徒会活動

神河町立神河中学校  
教諭 上月里香

はじめに

長きにわたり特別活動に関わる中で、行事や生徒会活動で生徒は育つと強く感じる。生徒会活動がうまく機能している学校には、生徒同士も互いを認め合う心が育ち、あたたかい雰囲気が流れているように思う。

ここに紹介させていただき取り組みは、生徒指導上の諸問題が山積していた前任校での取り組みである。問題の多い学校に対する地域の目は、決して肯定的なものばかりではなかった。生徒会活動は停滞ぎみで生徒の自尊感情も低かった。そんな中、「西中魂（プライド）」を生徒会の合言葉に特別活動担当として、生徒会担当や諸先生方とともに進めた活動の一部である。

### 1 取組の内容や方法とその成果

#### (1) 西の日活動

毎月24日（にしの日）に地域に出かけて清掃・街頭募金などのボランティア活動を行う取り組み。『地域の一人として自分が存在することを自覚する』ために非常に有効な活動となっている。地域の方々からも高い評価をいただいております、この活動は生徒会を支える大切な柱となっている。

専門部会でその月の活動内容を考えたり、生徒会本部が、必要な活動を提案したりして、内容にも工夫をこらしている。

今年で10年目を迎えるが、今ではすっかり定着しており、ボランティアを希望する生徒も毎回150名を超えている。



#### (2) 今月のMVPは誰だ！？

月に1度、自分の周りで頑張っている生徒を各学年から選び、その月のMVP（とても頑張った人）を決める。行事等での活躍だけでなく、清掃を頑張っている人、授業中発表を頑張っている人など多くの生徒が認められるように工夫している。

今月のMVPアンケートの結果は、生徒会新聞で紹介される。新聞には、「〇〇さんが〇〇に頑張っていた」という記事が多数掲載される。新聞を読んでいる生徒の眼はとてもおだやかである。互いを認め合うことができ、自尊感情を高めるのに役立っている。

また、「今月のMVP」に選ばれた生徒は、全校集会で表彰される。自分だけのために考えられた表彰状を手にする生徒は誇らしげである。

☆ 今月のMVPは誰だ！？ ☆

生徒会本部

西中には頑張る、という人がたくさんいます。  
例えは「授業で頑張る、掃除で頑張る、給食で...」などです。  
私も頑張る、という西中生は月に1回、誰か一人の  
生徒会新聞で紹介したいと思っております。同じ学年でも  
違う学年でもOKです。理由も書いていただけると  
皆さんとMVPになれるように頑張ります。

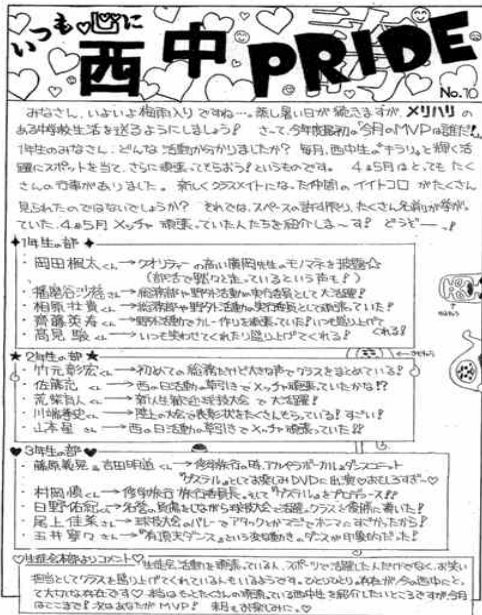
1 授業でもっとも真面目に頑張っているのは誰？  
年 組 \_\_\_\_\_ さん  
(理由: \_\_\_\_\_ )

2 掃除で頑張る、その人は誰？  
年 組 \_\_\_\_\_ さん  
(理由: \_\_\_\_\_ )

3 おんはあまり知らなけれど実はすごい頑張っているのは誰？  
年 組 \_\_\_\_\_ さん  
(理由: \_\_\_\_\_ )

4 最近「ほんまにええ子やば〜」と思ってるのは誰？  
年 組 \_\_\_\_\_ さん  
(理由: \_\_\_\_\_ )

5「あの子おんはいい子やば〜」と憧れる単独の人は誰？  
年 組 \_\_\_\_\_ さん  
(理由: \_\_\_\_\_ )



# 表彰状

平成28年4・5月

最優秀生徒賞

1年生の部 1年1組

あなたは野外活動の実行委員長として72回生をまとめました。また、レクではコーラを一気飲みをして他の生徒を驚かせ、野外活動を盛り上げました。これからも西中の行事をさらに盛り上げ、頑張ってください。

平成28年5月30日

福崎町立福崎西中学校

生徒会本部役員 一



### (3) 笑顔満開プロジェクト

5年前の生徒会が「いじめのない西中」にするためにと取り組んだ活動である。

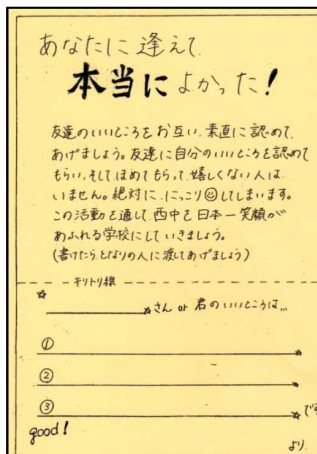
まず、全校生にどんな学校にしたいかをアンケートするとともに、「物を隠す」「あだ名を呼ぶ」といった行為に対する意識調査を行った。

「全校生が、毎日笑顔で過ごせる学校」「明るくさわやかな福崎西中学校」をつくりたいという生徒の願いがうかがえた。その一方で些細な行為が相手を傷つけていることに気づいていない生徒が多いことも分かった。そこで、取り組まれたのが「笑顔満開プロジェクト」である。

### ◎ あなたに逢えて本当によかった (平成26年度)

全校生徒に下のようなカードを配布、〇〇さんのいいところを3つあげて下さいという内容。集められた用紙を生徒会本部でまとめ、全校生に返した。自分のいいところが記されたカードを見た生徒は、ニコニコしながら書いてある内容を読んでいる。

下の「えがおまんかい」の写真は、自分のいいところを読み、それぞれが感想を書いた紙を貼り付けて掲示したものである。



- 1年生
  - ・自分にいいところがあるんだ、と思った。
  - ・ほめられ、自分もがんばりたいと思った。
  - ・普段話さない子と話すのが楽しかった。
  - ・自然と笑顔になった。
  - ・いいところたくさんあった!
- 2年生
  - ・私も、いいところを返してあげたいと思った。
  - ・みんな笑顔になった。
  - ・今度は他のクラスもやりたい。
  - ・自分が相手にどう思われていたか知れた。
  - ・みんな喜んでくれてうれしかった。
- 3年生
  - ・楽しかった、ありがとう。
  - ・涙が止まらなかった。
  - ・うれしくて、うれしくて、言葉にできない。
  - ・この企画、いいねー!

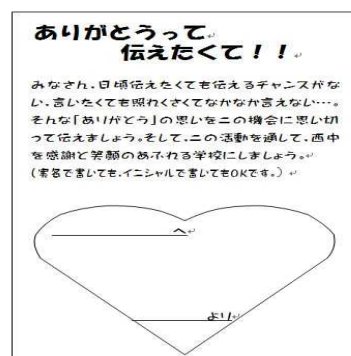


good to see you  
#1-10-1

◎ ありがとうって伝えたくて(平成27年度)

◎ ごめんね、ありがとう(平成28年度)

平成27年度は、「伝えたくても伝えられなかったありがとう」を、平成28年度は、「照れくさくて言えなかったありがとうやごめんね」をカードに書いて提出。その内容を放送で発表した。



### 笑顔満開プロジェクトまとめ

プロジェクト開始当初の生徒会は、「こんなことで本当にみんなが笑顔になるのだろうか?」と心配していたが、活動をすすめるにつれて手応えを感じるようになった。この活動により、学校が柔らかい空気に包まれる時間を生徒と職員が共有できている。

「いじめ」をなくすためには、豊かな人間関係を形成し、「いじめを生まない土壌づくり」を行っていくことが大切である。いいところを見つけあったり、感謝の気持ちを伝えあったりすることで、仲間として互いを認め合うことの大切さや、一人ひとりが大事にされていることに気づけたのではないかと考える。

#### (4) SNSに関するルール作り

スマートフォンや iPod TOUCH などの所持率が高くなり、生徒間での SNS (特に LINE) を介してのトラブルが増えてきた。

そのため、SNS 利用に潜む危険等についての講演会を3年連続で催した。講演の中で、「使用のルールを君たちで決められたらいいですね」というコメントがあり、生徒会本部が「それでは、僕たちで作らしましょう!」と、ルール作りが始まった。生徒会本部が中心となり SNS 委員会を立ち上げた。そして、全校生がルール作りに参加し、何度も話し合いを持った。

【SNS委員会メンバー】 生徒会本部 専門部部長 各クラス総務  
【協力教師】 特別活動・生徒会担当教師 生徒指導担当教師  
総務部担当教師

#### I 実態調査実施(アンケート)

実態調査の集計結果から西中の現状と使用上の問題点をまとめる。

#### II 第1回学級討議

- ① SNS 使用に関するアンケート結果について  
— 西中の現状と問題点
- ② SNS を使用する上で不安なことや心配なことについて

### SNS委員会

クラスでの討議の様子や出てきた意見の報告。  
次のルール作りに備え、ポイントとなる部分の確認。





### III 第2回、第3回学級討議

西中のルールを考える

- ① 個人の意見を出し合う
- ② 班で話し合い意見をまとめる
- ③ 班ごとの意見を討議し、クラスの意見をまとめる



SNS委員会

「ルールなど作らなくても良い。」「利用は自己責任」「作っても守るのか。」などの意見もあったことが報告される。

SNS委員会で話し合い、「自分や友達、まわりの人を守るためには必要」「みんなが守れそうなルールを考えて行くことが今回の取り組みの大切なポイントである」と方向を決定。クラス全員にも伝える。そして、2度の学級討議を経て出されたクラスからの提案をもとに「西中SNS憲章(仮)」を作る。

### IV 第4回学級討議

- ① SNS委員会原案の確認ー1つ1つ確認していく。
- ② より良いルールにするための改善点を考える。



SNS委員会

各クラスで出た意見を基に改善し、ルールを完成。名前も考え、「SNSのおきて～福崎西中7つの心得～」と決定する。

### V 全校集会

「誰もが安心してSNSを利用できるように、みんなで考えたルールであり、意識を高め、守っていくことが、西中生としての誇りだ。」と生徒会長が宣言した。

その後は、毎週金曜日に週番部がルールを守っているかどうかをチェックする活動を継続している。

ルール作りを通して

このルール作りは新聞でも大きく報道された。「日が変わったらしない」というルールは甘いのではないかと、という声も聞こえてきた。しかし、このルールは生徒が自分たちの実態をもとに考え、決定したものであり、そこに意義があると考えます。

すでにルール制定から2年半を経過した。今の在校生はルール作りに直接かかわってはいない。毎年、ルール制定の日を「メモリアルデー」とし、ルール作りの経過を振り返っている。ルール作りの意義をいかにして継承していくかが今後の課題といえる。



#### 4 課題及び今後の取組の方向

上記した取組等によって、地域から認められ、一人ひとりが所属感、存在感を感じることで、生徒は自信を持ち、生き生きと学校生活を送れるようになってきた。

生徒会の自主的な取組が活発になるに従って、行事や学校全体に「勢い」を感じるようになってきた。かつて、閉塞感のあった生徒会活動や行事も変貌し、学校のかもし出す雰囲気もあたたかく優しいものになった。

しかし、友人間のトラブルが皆無となったわけではないし、不登校生や不登校傾向の生徒がいないわけではない。また、今年度より、着任した本校も前任校と同様、友人間のトラブルや不登校生の問題は同じようにある。今度は現任校で、互いを認め合う仲間づくり、すなわち「豊かな人間関係づくり」を通して、「この中学校が好き」「うちの中学校ってすごいやろ!!」と母校に誇りを持つ生徒作りの手助けをし、今以上に地域から愛される学校にしていきたいと考えている。そのために、今後も生徒の豊かな発想をもとにした自主的な取組を応援していきたい。